

《小学生の部》

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

鹿児島県長島町立川床小学校

5年 浦 来叶

お父さんと行く鶏ふん配達と交通安全

ぼくの楽しみな土曜日。今日は、お父さんと一緒に鶏ふん配達に行く日だ。朝早く、まだうす暗い中、エンジンをかけたお父さんのダンプトラックに乗り込んだ。車体が

「ブルブル。」

と震えるのを感じながら、ぼくは、シートベルトをカチッとしめる。お父さんは、いつも
「シートベルトは、命綱だぞ。」

と教えてくれる。ぼくたちの冒険は、この安全確認から始まる。

家を出てすぐは、お店や家が並ぶ見なれた道だ。でも、しばらく走ると、周りの景色は、あっという間に変わる。ぼくたちのダンプトラックは、どこまでも続く田んぼや畠の中の一本道を進んでいく。朝つゆにぬれた稲がキラキラと光り、遠くには大きな山々が連なっている。鳥の声が聞こえ、澄んだ空気がまどからスーッと入ってくる。こんな気持ちのいい道だけど、お父さんはいつも真剣な顔でハンドルをにぎっている。

最初の配達先に着くと、お父さんはダンプトラックをきちんとはじによせて停めた。

そして荷台から鶏ふんの入った大きなふくろをいくつも下ろしていく。一つ一つが重そうだけど、お父さんは、なれた手つきで運んでいく。ぼくも小さなふくろを運んだり、スコップを渡したりしてお手伝いをした。作業中もお父さんは、

「車のかけから人が出てくるかもしれないから、気を付けろよ。」
とか、

「荷物を高く積みすぎると、カーブでバランスをくずすことがあるんだ。」
と、安全に関する色々な話をしてくれた。

何ヶ所か配達していくうちに、ぼくたちはどんどん山の方へ進んでいった。道はだんだん細くなり、カーブもふえてくる。お父さんは、カーブの手前で必ずスピードを落とし、

「対向車が来るかもしれないからちゃんと確認するんだぞ。」
と教えてくれた。見通しの悪い交差点では、一度止まって左右をしっかり確認してから進む。ふだん、自転車に乗っているぼくも、見なれた道では、こんなに気を付けないといけないんだと改めて交通安全の大切さを感じた。

全ての配達を終え、夕焼けが空をオレンジ色にそめるころ、ぼくたちは家路についた。

一日中ダンプトラックに乗っていたけれど、安全に気を付けながら運転してくれたお父さんのおかげで、ぼくは一度も怖い思いをしなかった。

今日一日、お父さんの仕事を手伝って、働くことの大変さや、食べ物がどのように作られているのかを知ることができた。ぼくも将来、車を運転するようになったら、今日お父さんから学んだことを忘れずに、どんな時も安全運転を心がけたい。